

特別調査

神戸空港の国際化に伴う

経済波及効果

ひょうご経済研究所
主任研究員 浅野 学



プロフィール

1960年生まれ。1983年、阪神相互銀行（現みなと銀行）に入行。大阪支店、本店営業部、資金証券部などを経て、2004年ひょうご経済研究所に出向。のじぎく兵庫国体、姫路菓子博、神戸マラソンなどの経済波及効果を推計。神戸大学、兵庫県立大学、甲南大学などで講義。神戸新聞社関連の会員誌など他誌に寄稿。みなと銀行の景況調査の集計・分析、財団機関誌の調査記事の執筆などを担当。

当研究所は、神戸空港への国際チャーター便の乗り入れ開始に当たり、同空港の国際化が兵庫県経済に及ぼす経済波及効果を推計し、運航が始まる1カ月前の2025年3月18日に記者発表した。併せて、来神を促したい外国人について分析して誘客対象としたい層を示すとともに、順調に来神者が増加した場合の経済波及効果についても試算を行った。

経済波及効果とは

経済波及効果とは、公共投資やイベントなどの経済活動がきっかけとなって新たな需要が生まれ、次々とさまざまな産業の生産を誘発する形で広がっていくことをいう。ちょうど水面に投げ込まれた石が起す波紋のように、多方面に広がっていくことから生産波及効果とも呼ぶ。一般的には次の3つの効果（①②③）の合計である。

① 直接効果：経済波及効果を推計する際の基に

なる効果。本件では神戸空港の国際化に伴い、チャーター便で来神する外国人の消費額（宿泊費、交通費、土産代など）に焦点を絞り、その効果を推計した。

② 第一次波及効果：直接効果によって誘発される効果。本件では外国人の消費によって誘発される原材料の生産活動などである。

③ 第二次波及効果：前記①②により製造業などで働く人に給与が支払われ、その一部が消費にまわることによって誘発される効果。

この循環はその後、第三次、第四次と繰り返され、規模を縮小しながら収束するが、第二次波及効果まで合計するのが一般的である。

推計手順

推計に当たっての基本的な考え方

経済波及効果を推計する際、推計の対象とする経済活動について、どのような活動を含めるかに

よって、推計結果が大きく変わってくるため、事前に推計対象とする経済活動を明確にしておく必要がある。

本件の場合、国際チャーター便の乗り入れに際し、神戸市は国際線用の第2ターミナルを整備しており、広義に捉えれば、この整備費を経済波及効果に加えることも可能である。しかしながら、本件の推計においては、神戸空港の国際化後、新たに生まれる効果を探ることに主眼を置いた。従って対象を国際チャーター便に乗って神戸空港にやってきた外国人が、兵庫県内で支出する

消費額に限定し、経済波及効果を推計した。つまり、左の図に示すように、インバウンド消費の増加に着目した推計となっており、まさに神戸空港の国際化によってもたらされる経済波及効果を推計したものと言える。

推計対象
チャーター便運航開始に伴うインバウンド消費の増加が、兵庫県経済に及ぼす影響を推計する

来神者数の推計

神戸市のホームページや新聞記事などを参考に、神戸空港に乗り入れる航空便について、国・地域別に座席数と便数を調べ、この2つを掛け合わせて来神者数を推計した【表1(A)】。

例えば韓国からは、計算上182人乗りの飛行機が730便到着し、年間最大13万2860人来神する。ただし、悪天候などによる欠航やキャンセルによる空席などが発生することを考慮し、搭乗率80%を乗じて年間10万6288人が来神するとみなした。同様の方法で、中国、台湾、ベトナムからの人数を計算し、年間の来神者数が合計30万4658人になると推計した。

来神者1人当たり消費額

観光庁の「訪日外国人消費動向調査」をもとに、兵庫県を訪れた外国人が訪日中に兵庫県内で消費する金額を調査した【表1(B)】。

例えば韓国からの来神者は、1人当たり宿泊費が5151円、交通費が1374円、土産

代が3935円、その他が5249円で合計1万5710円消費するといった具合である。

来神者全体の年間消費額（直接効果）

1人当たり消費額と年間の来神者数（いずれも国・地域別の数字）を掛け合わせ、神戸空港に来た外国人が1年間に兵庫県内で消費する金額（直接効果）を算出した【表1(C)】。

例えば韓国の場合、1人当たり消費額1万5710円×来神者数10万6288人＝年間消費額16億70百万円となる。同様の方法で中国、台湾、ベトナムの消費額を計算し、全体の年間消費額（直接効果）を70億84百万円とみなした。

推計結果

経済波及効果 104億円

この直接効果を「2015年兵庫県産業連関表」に投入して推計した結果、第一次波及効果が19億78百万円、第二次波及効果が13億68百万円となり、直接・第一次・第二次の3つの効果を合計した経済波及効果は104億29百万円となった。これを雇用に換算すると、新たに960人の雇用を生み出す効果に相当する【表1(C)・(D)】。

国・地域別では、中国からの来神者による経済波及効果が59億60百万円と全体の6割近くを占め最も大きい。来神者数は韓国、中国、台湾とも10万人前後と大差はないものの、1人当たりの消費額では中国が2倍と大きく、これが経済波及効果を押し上げる要因となっている。

【表1】経済波及効果の推計

(A) 年間来神者数（神戸空港到着便）

国・地域	出発地		A 座席数 (席)	B 年間便数 (便)	A×B 年間来神者数(人) 最大 搭乗率80%	
	都市	空港				
韓国	ソウル	仁川国際空港	182	730	132,860	106,288
中国	上海	上海浦東国際空港	184	365	67,160	107,456
	南京	南京禄口国際空港	184	365	67,160	
台湾	台北(桃園)	台湾桃園国際空港	188	156	29,328	90,506
			146	104	15,184	
	台中	台中国際空港	188	365	68,620	
ベトナム			170	3	510	408
合計					380,822	304,658

資料：2025年2月18日現在、神戸市のホームページ、新聞記事等により作成

(B) 来神者1人当たりの消費額（訪日1回当たり）

国・地域	宿泊費 (円)	交通費 (円)	土産代 (円)	その他 (円)	合計 (円)
韓国	5,151	1,374	3,935	5,249	15,710
中国	10,397	3,048	14,337	9,926	37,708
台湾	4,111	1,485	5,077	3,895	14,568
ベトナム	32,364	11,384	34,451	28,941	107,140

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」（2023年）より作成

(C) 経済波及効果

国・地域	① 直接 効果	② 第一次 効果	③ 第二次 効果	①+②+③ 経済波及 効果	(人) 雇用 創出
韓国	1,670	473	322	2,464	230
中国	4,052	1,126	782	5,960	547
台湾	1,318	367	256	1,941	179
ベトナム	44	12	8	64	4
合計	7,084	1,978	1,368	10,429	960

(D) 推計結果

経済波及効果 年間 104億2900万円
(新たに960人の雇用を生む効果)

直接効果 → 2015年兵庫県産業連関表に投入

業種別の経済波及効果

業種別には、第三次産業に及ぼす経済波及効果が85億34百万円（全体の81.8%）となり最も大きい「表2」。中でも飲食・宿泊業などの対個人サービスのほか、商業、運輸といったインバウンド消費（観光関連の個人消費）の恩恵を受ける業種の効果が大きくなっている。

一方、対事業所サービス（広告、情報サービスなど）のようにインバウンド消費の影響が間接的に及ぶ業種や、鉱業、建設業などインバウンド消費とは直接結びつかないと思われる業種に至るまで、あらゆる業種に効果が及ぶことが判明した。

〔表2〕業種別の経済波及効果

業 種	経済波及効果 (百万円)	(%)
第一次産業	382	3.7
農林漁業	382	3.7
第二次産業	1,469	14.1
鉱業	3	0.0
建設業	37	0.4
製造業	1,430	13.7
飲食料品	534	5.1
繊維製品	163	1.6
その他	732	7.0
第三次産業	8,534	81.8
電力・ガス・水道	373	3.6
商業	1,366	13.1
運輸・郵便	959	9.2
対事業所サービス	421	4.0
対個人サービス	4,278	41.0
その他	1,138	10.9
分類不明	44	0.4
合計	10,429	100.0

商業…卸売・小売業
対事業所サービス…広告、調査・情報サービス、
物品賃貸業など
対個人サービス…飲食店、旅館・その他の宿泊所、
娯楽サービスなど

104億円をどう捉えるか

104億円という推計額は、兵庫県の名目GDP（2022年度）のわずか0.04%にすぎず、大きな数字とは言い難い。しかし、これはあくまでも国際化がスタートした時点の評価である。将来的に運航路線の増加などにより神戸空港の存在価値が高まっていくことが期待され、それに連動して経済波及効果も膨らんでいくと想定できる数字である。つまり、大きく飛躍する可能性を秘め

た評価と捉えることが可能であり、将来への夢を感じる推計額であると言えよう。

経済波及効果の拡大に向けて

経済波及効果を拡大するには、①来神者を増やす、②来神者の消費額を増やす、①②両方、のいずれかを実現する必要がある。①は空港設備等の制約（滑走路の長さ、発着回数の制限）から、早期に乗客数を増やすことが難しいため、当面は②の消費額を増やすことが現実的である。

課題：消費額、宿泊日数が少ない

観光庁の「訪日外国人消費動向調査」により兵庫県を訪れた外国人の状況をみると、1人当たりの消費額が2万8532円（37位）、平均宿泊日数が1.7日（44位）となっており、大阪府と比べて消費額が1/3にとどまり、平均宿泊日数も2泊少ないなど差がある「表3」。

経済波及効果を高めていくためには、1人当たりの消費額を大阪府の1/2程度に増やす、宿泊日数を1泊増やすというように、具体的な目標を定め、少しでも改善していく必要がある。

〔表3〕兵庫県の課題

訪問地	1人当たり消費額 (円)	平均宿泊日数 (泊)	
		順位	順位
東京都	140,942	1	6.1
沖縄県	107,383	2	5.1
北海道	103,919	3	5.3
福岡県	87,512	4	4.3
大阪府	85,489	5	3.6
愛知県	75,010	6	5.1
茨城県	70,468	7	12.8
宮城県	61,963	8	4.3
兵庫県	28,532	37	1.7

〔表4〕日本での滞在日数別

日本での滞在日数(日)	1人当たり消費額(円)
3日間以内	9,845
4～6日間	20,319
7～13日間	29,569
14～20日間	29,095
21～27日間	26,776
28～90日間	72,987

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」
(2023年)より作成

来訪を促したい外国人

課題の改善に向け、来訪を促したい外国人は以下のとおりである。

①滞在期間が長い外国人

兵庫県を訪れた外国人の1人当たり消費額を滞在日数別にみると、7～13日間が2万9569円、14～20日間が2万9095円であるなど、総じて日本での滞在期間が長い外国人の消費額が大きい。ターゲットとしては1～3週間程度の予定で来日する外国人となる「表4」。

②消費額が大きい年齢層

同じく消費額が比較的大きい年齢層は、男性が50～60歳代、女性が40歳代である「表5」。この層は年齢的にみて、ビジネス面では取引の中心人物としての役割が期待されるほか、観光面では県内を意欲的に周遊することが期待されるなど、兵庫県経済の活性化に資する効果が大きいと考えられる。

③来訪6回目以上

同じく日本への来訪回数が6回以上（特に10～19回）の外国人の消費額が大きい「表6」。東京、

〔表5〕性別・年齢別

年齢	1人当たり消費額(円)	
	男性	女性
全体	31,028	25,840
15～19歳	17,336	12,337
20～29歳	37,687	22,995
30～39歳	26,679	26,070
40～49歳	30,355	36,010
50～59歳	32,303	22,300
60～69歳	34,495	19,334
70歳以上	7,181	18,275

〔表6〕日本への訪問回数別

日本への訪問回数(回)	1人当たり消費額(円)
1回目	20,723
2回目	22,409
3回目	25,479
4回目	19,340
5回目	22,255
6～9回目	33,663
10～19回	66,425
20回以上	41,362

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」
(2023年)より作成

〔表7〕主な来訪目的別

主な来訪目的	1人当たり消費額 (円)
観光・レジャー	21,080
親族・知人訪問	45,509
留学	46,061
展示会・見本市	111,243
国際会議	34,790
企業ミーティング	82,644
研修	45,927
その他ビジネス	106,223

〔表8〕日本滞在中の宿泊施設別

日本滞在中の宿泊施設	1人当たり消費額 (円)
ホテル (洋室中心)	27,541
旅館 (和室中心)	31,931
ユースホステル・ゲストハウス	22,600
カプセルホテル	31,651
親族・知人宅	49,983
自己所有の別荘等	390,450
会社所有の宿泊施設等	73,363

資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」(2023年)より作成

富士山、京都、大阪などの人気の観光地はすでに訪問済みで、次回、日本を訪問するときは地方の観光地をゆっくり巡ろうと考えている訪日客が狙い目と言えよう。

④ ビジネス関連

来訪目的別では「展示会・見本市」、「企業ミーティング」などビジネス関連客の消費額が大きい〔表7〕。神戸空港はビジネスの中心地である三宮へのアクセスがよいことに加え、ポートアイランド内には国際会議場となるホテルや、世界の最先端をいく医療産業都市があるなど、ビジネスを進めていく上で地の利がある。このような優位性を積極的にアピールしていくことでビジネス関連の外国人を呼び込むことが望まれる。

⑤ 富裕層

日本滞在中の宿泊施設別では、自己所有の別荘等の消費額が39万450円と大きく、富裕層がターゲットとなる〔表8〕。神戸空港が設備の制約により飛行機の便数が限られることを考えると、このように桁違いに大きな消費額が期待できる富裕層を、優先的に来神させたいものである。

《参考》経済波及効果の増額試算

県内での宿泊が1泊増加

観光庁の「訪日外国人消費動向調査」には1人・1泊当たりの消費額も示されている。これを参考にして県内での宿泊が1泊増加した場合の1人当たりの消費額を計算すると、韓国からの来神者の消費額が3万2531円となるなど金額が大きくなった〔表9(A)〕。

この国(地域)別の消費額をもとに、当初想定した国(地域)別の来神者数〔表9(B)〕を掛け合わせて試算したところ、経済波及効果は年間186億2500万円、新たに生む雇用は1721人となった〔表9(C)〕。当初の推計額と比べて、経済波及効果が約82億円、雇用が761人増加する結果となった。

便数が2倍、県内での宿泊が1泊増加

さらに便数が2倍に増える来神者数が約61万人になった場合〔表9(B)〕、経済波及効果は年間372億5100万円、新たに生む雇用は3454人となった〔表9(D)〕。こちらも当初の推計額と比べて、経済波及効果が約268億円、雇用が2494人増加した。

なお、増便を検討するに当たり、経済波及効果をもとめるという視点から言えば、1人当たりの消費額が大きい国・地域からの航空便を優先して進めていくことが望ましい。中でも中国は人口が多い分、多数の来神者が期待できることから、誘客に力を入れてほしい先である。

〔表9〕《参考》経済波及効果の増額試算

(A) 来神者1人当たりの消費額 (1泊増加)

国・地域	宿泊費	交通費	土産代	その他	合計 (円)
韓国	10,667	2,845	8,149	10,870	32,531
中国	16,320	4,784	22,506	15,581	59,191
台湾	8,681	3,135	10,719	8,223	30,757
ベトナム	35,067	12,334	37,329	31,358	116,088

(B) 年間来神者数 (神戸空港到着便)

国・地域	年間来神者数 (人)	最大	
		当初想定	便数2倍
韓国	132,860	106,288	212,576
中国	134,320	107,456	214,912
台湾	113,132	90,506	181,011
ベトナム	510	408	816
合計	380,822	304,658	609,315

(C) 県内での宿泊が1泊増加

国・地域	(百万円)				(人)
	① 直接効果	② 第一次効果	③ 第二次効果	④ ①+②+③ 経済波及効果	
韓国	3,458	979	667	5,103	478
中国	6,360	1,767	1,227	9,355	863
台湾	2,784	774	540	4,098	375
ベトナム	47	13	9	70	5
合計	12,649	3,534	2,442	18,625	1,721

直接効果
→ 2015年兵庫県産業連関表に投入

経済波及効果 年間 186億2500万円
(新たに1721人の雇用を生む効果)

(D) 便数が2倍、県内での宿泊が1泊増加

国・地域	(百万円)				(人)
	① 直接効果	② 第一次効果	③ 第二次効果	④ ①+②+③ 経済波及効果	
韓国	6,915	1,957	1,333	10,206	960
中国	12,721	3,535	2,454	18,710	1,728
台湾	5,567	1,549	1,079	8,195	754
ベトナム	95	26	18	140	12
合計	25,298	7,068	4,885	37,251	3,454

経済波及効果 年間 372億5100万円
(新たに3454人の雇用を生む効果)